



經典餘師
易經
三

□ 11
2047
13



門 〇 〇 〇
2.047
13

周易餘師卷之三

坎下 兌上

困亨貞大人吉
言有信咎无言有

初六殿目困于株木于
三歲不覲

周易餘師卷之三



坎下 兌上 兌上 兌上 兌上 兌上

困亨貞大人吉无咎有言不信

初六殿目困于株木于三歲不覲

幽谷三歲不覲

困于株木于三歲不覲

經典餘師

周易卷之三

九二酒食于困
朱紱方來
亨祀用
利征凶咎无

六三石于困
疾藜于據
其官于
入其妻
見不出

九四來徐々
金車于困
吝終有

九五劓刑赤紱
困乃徐
有說
有祭祀
用利

の時小助... 朱紱方來利用亨祀征凶无咎
○九二困于酒食

朱紱方來利用亨祀征凶无咎

○六三困于石據于疾藜

○九四來徐々

○九五劓刑

疾藜この二物... 困于金車吝有終

困于赤紱乃徐有說利用祭祀

人... 得てカとせん... 求困む

上六葛藟于臲
曉于困曰
動悔有征

逢て見説有り誠の心て用るグゆスニ祭祀ハ神
○上

六困于葛藟于臲曉曰動悔有悔征

吉 葛藟ハ高岨又ハ木末ノ下ニ至テハヤキニ付テ又ハ
上六ノ柔弱ノ陰爻ニ付テ高ト上ニ至テ下ニ助ケル
動ノ定ラレ困キ小トシテ困究小當トシテ身トカ
ろシメ動トリテ悔ト有テ志ラズトシテ動不トモ
去ラズトシテ進んでゆキ由ク時

巽下坎上



巽下 坎上 巽ハ下ノ坎ハ上ノ水ハ入テ水トシ

井改邑不改井无喪无得 往來井々

改め不喪无得
无往來井々
汔至亦井り
繻未其瓶

汔至亦未繻井羸其瓶凶

初六井泥食不
舊井禽无

初六井泥不食舊井无禽

初爻ハ井ノ卦ノ下ニ至テ底トシテ坎ノ水上ニ有ル水也
初六ハ應爻ノ助ケル由底ノ泥ト漂テ水ト擧ル
舊井ハ仍テ舊井ハ人ノ飲食ニ使ハズ
人ノ水不用ケル由落ル由
鳥ノ來ル由

九三井谷射射
射レ瘞瘞故レテ
漏

九三井深食不
我心の惻として為用
て汲可王明立
小其福と受

六四井甃咎
无

九五井冽寒泉
食

上六井收幕
勿字有元吉

命の○九三井谷射射瘞瘞故漏
泥より水なりと云ふれ水汲つて彼
小泉又蛙さぐり射けることなりとも用ふ立きりど
の水なりとぞ射かたなりといひ又いでて虫とも
ついで又ふたのうとて此の心の九二大臣の身なり
大ぬめむじことなり○九三井深不食為我

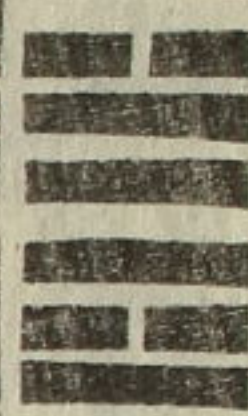
心惻可用汲王明立受其福
たし井とぞ小深て水清しきれどもいまま汲
う用ゆることなりと下卦なりていまま上卦
さるとして之井深れどもいまま人の飲食あり
がしこも心の惻なりとては汲て用へる
るれとも王の明なり射射一めさるゆえ空いて有
るし上より知てしげ用ゆる人並福幸と受るなり

六四井甃咎
とたり水上小れ下りる賢者
上より下り民するなりとの義なり○六四井秋
无咎 甃石なりとて甃瓦とて井の内
上より下り民するなりとの義なり○六四井秋
无咎 甃石なりとて甃瓦とて井の内
上より下り民するなりとの義なり○六四井秋
无咎 甃石なりとて甃瓦とて井の内

九五井冽寒泉
上卦又交
拾別用ゆるなりとの義なり○九五井冽寒泉
食

上六井收
○上六井
も上あるゆへ水たる象と收水とらる麻戸又
んかた幕と幕とをさるこまなりと云ふれ

離下兌上



離下 離火の上 坎の水 水は火を消す 故に以て

變じて汗乾と成る 變じて革改と成る 兌上 火は炎の相 變じて革改と成る

革己の日乃利貞
利貞悔亡

革己日乃利貞 利貞悔亡 奮く

初九鞶用黄牛

初九鞶用黄牛之革 俄不改革

牛之革と用ゆ

六二己の日乃利貞
無咎

六二己日乃革之 征吉无咎 六二と臣

九三征凶貞厲
革言三就

九三征凶貞厲 革言三就有孚 動

九四悔亡 有孚

九四悔亡 有孚 九四と臣

命を改む吉

九五大人虎変
占の未ふ孚有

有孚改命吉

内卦文
命を改む吉

九五大人虎変未

占有孚

大人徳の人革命の君
占の未ふ孚有

占の未ふ孚有
大人徳の人革命の君
占の未ふ孚有

君子豹変小人革面征凶居貞吉

君子豹変小人革面
征凶居貞吉

巽下離上

巽元吉亨

初六鼎趾と顛
否と出小利



巽下離上

巽下離上
巽元吉亨

初六鼎趾と顛
否と出小利

出否得妾以其子无咎

出否得妾以其子
无咎

九二鼎實有我
仇疾有我不即
之能不可吉也

九三鼎の耳革
其行塞る雉
の膏食れ不方

りつふつりて又これと可とれたとへ妻を得て之を重
ト寵むるの不可も色ども妻むるに嗣子あり時ハ
妾とありみ用ゆるに答ふにうれとたれが嗣子と申じ
家道と継て孝行の道ふらうらふの切とすくの一説ふ已り
鼎と清くその内ふ煮餼一實と入有とす
たとへ妻の胎内ふ子と申せし一実と入有とす
九二

鼎有實我仇有疾不我能即吉

陽剛中
實あり

ゆえ鼎の内ふ實ありと仇と初六の疾と初六の否
とつ之初の應ハ四ふも承ハ近してその否鼎の實
ふかりて汚易一ちうれども九二中正剛徳と以て我
身ふ近づけ即しめんとて小人の人と害とる初めハ
中一きと以て次第ふ法とて一陰とてうれとて併
入るあやむる疾ハ嫉と通して疾妬とるをせむる

九三鼎耳革其行塞雉膏不食方

九三陽剛ふして中半と過ると鼎
の卦ふがうと熱して鼎の耳常に

兩虧悔終吉

小兩ふ悔と虧
終と吉也

華て持行しとるがう用塞る故と下
ふして美味の色ども食せられ不烹餼へのと陰陽
和とて味臭よとに上ハ陰陽和とれば兩ふがう初
の悔ありと次弟ふくむと虧とせて戸と吉ふ
終あり

九四鼎折足覆公餗其形渥

九四鼎足と折公
の餗きと覆ハ
其形渥

九四初六と應あり初とてふ趾と顛倒あり仍て轉
足と折とハ鼎にとて内ふら餗のとて覆出
ととて君の食の肉味と上ハいえる雉の膏の
たらひる餗とを坐けて形渥汚とかりた
大臣との器量ありとらざる重任とつとむる時を似
合ざるのとらざると毀破とらざると辱とらざる
と故とふと又この交變ハ與惑の

六五

鼎黃耳金鉉利貞

鼎の取も鉉も黃金
造らるる中央の
色あり耳ハ中空
鼎も又容のもの
金ハ中正とて離
の文ありる君ふた

上九鼎王鉉大吉
利不亡

鉉大吉无不利

井の卦水に汲て上に出ると以て
用と凡の卦食に烹て上に出ると

上九鼎王

以て用と凡の卦の卦烹鉉の爻とて天下の中を以て
君位の六五に備つるに似ても鼎を提ぐ行わがらして施すに
と凡の卦の卦の爻とて天下の中を以て天下の中を以て
野の卦の卦の爻とて天下の中を以て天下の中を以て
ふるぬゆゆと云

震下 震上



震下 震上

陰氣上を疑ひたりまり陽氣内を奮發
して生氣發達とるとして亨とて震

震亨 震來虩々
笑言啞々 震
百里 敬馬

震亨 震來虩々 笑言啞々 震敬馬百里
不喪七鬯

震亨 震來虩々
笑言啞々 震
百里 敬馬

初九 震來虩々
後笑言啞々 吉

初九 震來虩々 後笑言啞々 吉
同卦の震驚以下とて亨とて柔の辭に人ぞ澄る
のここと初九の震とて柔の初ある由と説之虩々や
萬変なまふとて初九の震とて柔の初ある由と説之
吉祥ふつるとて柔の初ある由と説之
とて柔の初ある由と説之
○六二 震來厲億

喪貝躋于九陵 勿逐七日得
六二 震來厲億

其其身不獲不見其人
庭行其人
見不咎无

初六其趾不長
利无永貞

良其背不獲其身行其庭不見其人

无咎 人の心の動て安止このなりがさきを欲心なり耳
目鼻口の為ふるまきくふり入り入り欲心なり

初六 背不在かゆえ其身と視てく獲るるなり莊
子吾こらふ我とこらるとつものなり庭行

初六 初六陰柔なれば下居て物の初はくむの象
ゆるゆえ咎なきと云ふ陰柔なるを又云ふ

利无永貞 止まるるも初なるもの
初六 初六

良其趾无咎利永貞 止まるるも初なるもの
初六 初六

之陰柔の身より第一の下良止實ふとくまらぬと
得るることこの良止といふもの移るるなり

初六 初六陰柔なれば下居て物の初はくむの象
ゆるゆえ咎なきと云ふ陰柔なるを又云ふ

堅固なり 戒めてて永く身と貞固と利と
とく終つて慎戒して始のどくもを咎なき

六三其腓不極其隨其心不快

六三 六三の陰柔なるゆえ中正なるも九三の過中と
極と云ふは却て三は隨從なり夫ゆえ心快ぶこと

九三 九三の陽剛なるゆえ上なる一陽の剛爻といふま
下の間より下の上なるゆえ良の上なる

九三 九三の陽剛なるゆえ上なる一陽の剛爻といふま
下の間より下の上なるゆえ良の上なる

九三 九三の陽剛なるゆえ上なる一陽の剛爻といふま
下の間より下の上なるゆえ良の上なる

九三 九三の陽剛なるゆえ上なる一陽の剛爻といふま
下の間より下の上なるゆえ良の上なる

九三 九三の陽剛なるゆえ上なる一陽の剛爻といふま
下の間より下の上なるゆえ良の上なる

六四 六四の陰柔なるゆえ下なる一陰の柔爻といふま
上の間より上の下なるゆえ

六四 六四の陰柔なるゆえ下なる一陰の柔爻といふま
上の間より上の下なるゆえ

六三其腓不極其隨其心不快

九三其限列其夤厲薰心

六四其身无咎

六五其輔不艮
言序有悔亡

ひきかたに吾身とて陰の正きを
得るも吾身とて陰の正きを
位好で静るる陰の
性とてゆるり
○六五良其輔言有

序悔亡 五の六るるの幼君又の携政の大臣より三
四五五六の山雷頤の象より面部の中を輔

上九敦く艮る
吉

君の徳をいひきよめ人の言語の順序次第
ゆるり緩の大き言と急ふつ出と時人信じる
と浅迫るるべしと有是ふ仍く言と始ふまめつ
むと悔るる
○上九敦良吉 坤土の厚き乃
至今陽爻

艮下巽上

艮下 艮の山ふ巽の木の漸次第より
巽上 巽の山も次第外の意木の次

漸女歸吉と
貞不利と

漸女歸吉利貞 漸の順序次第より親迎の礼す
るゆえ女の嫁とて貞とて

初六鴻干干漸
小子厲言有
咎无

初六鴻漸干干 干の水屋之中文坎水の下
るゆえ小子とて陰爻

長者ゆるく小飛でまらつるがゆえ小厲を言つこ
つるるるあつども義不於て咎ち初め君ふ
仕進するもたつるる遠き思慮とつる
死つる中むの象又女の嫁とて初も同断る陰柔

六二鴻漸于漸
飲食行々吉
吉

九三鴻陸于漸
夫征復不婦
孕不育凶

○六二鴻漸于盤飲食行々吉
漸盤水際
漸入堆也又水中石也初六之水際漸入堆也

九三鴻漸于陸夫征復不婦孕不育凶
陸地也夫征復不婦孕不育凶

利禦寇
水鳥の胎也

復不婦孕不育凶
復不婦孕不育凶

六四鴻木于漸
或得其桷
咎无

九五鴻陵于漸
婦三歲不孕
終莫之勝
莫吉

上九鴻陸于漸

○六四鴻漸于木或得其桷
桷木也

九五鴻漸于陵婦三歲不孕終莫之勝吉
莫吉

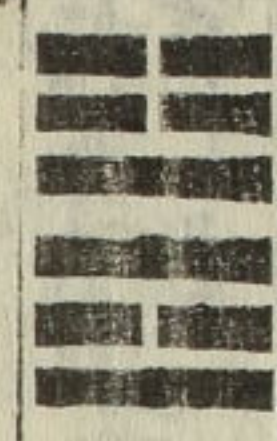
上九鴻漸于陸其
利

其羽用儀
為可吉

羽可用為儀吉

陸の達の字と誤写し、
遠の鴻の字と誤写し、
九の高く位の外あり他の卦に有て已過るとの漸卦を
水于より段々外より小至るとの人ありて
世の常ふと出るとの達人の高致と人の儀法と
かよきと一羽と一鴻の作用の羽と在るとゆえり
るりとの作法とるること
羽儀とつとるること

兌下震上



兌下 震上 震の動之年長し男と兌のよりこよ
と必き女とよりこよ

くくこくこくこく正の方とくくくくくく好の歸嫁
とくくこくこくこくこくこくこくこくこく

歸妹征凶利
攸无

歸妹征凶无攸利

古詩女已悦悦者
為小容はくると云云
女のくきこく心のよりこく正のよりこく
嫁とるの婦一人と守る處に男とよるこく
ありこく利あり
○初九歸妹以娣跛能履

初九歸妹娣を

以跛能履
征吉

征吉

六五の女君以下の諸文の勝妾あり婦人ふ
万葉ふ妹とつとる婦人として陽文なる賢貞の
徳ありと但し應文も且初文として下るれを
嫌の躬下るものと應ふけを賢わんども功の為
守るものと可といふ仍く征とるこく

九二眇能視
幽人之貞利

眇能視幽人之貞

陽文中正なる賢女の
徳ありといふ六五正應
るこくも危懼あり心有く不良なる夫といふ九二
賢婦ありといふも夫と輔佐て一家の改変と
るこくも危懼あり心有く不良なる夫といふ九二
賢婦ありといふも夫と輔佐て一家の改変と
るこくも危懼あり心有く不良なる夫といふ九二
賢婦ありといふも夫と輔佐て一家の改変と

六三歸妹以須
反歸以娣

六三歸妹以須反歸以娣

この婦三の上ありこく
○六三歸

九四歸妹期愆
歸遲時有愆

六五帝乙妹歸
其君之袂不如其
婦之袂之良也
不月望小幾
吉

陰爻と以て陽位有がゆえふ不中不正して愆るは
このあり且應うべん元より娶るものか一仍く適
所なく時と須とつらりあつれば嫁は止て嫁と
あるべしと嫌はるる他人の嫁とるものうた
そい女中とるる ○九四歸妹愆期遲歸有
時 歸妹の卦とて陽爻と賢徳の女は又四爻中と
過る應文もさか故に嫁は愆期と愆て適と
遅らるる然れども身賢徳るも歸とれ

六五帝乙歸妹其君之袂不如其婦
之袂良月幾望吉 陰爻にして尊位に居るゆえ
高貴身なる妹姫といふ九
二の正應るがゆえ天子の宮の諸侯へ下嫁する
すむる一般の天子と帝の妹姫の下嫁と
有がゆえふこの卦象も配するものなりこの帝は至る
昏れ男女の令別下ると示す貴人の姫といふも

上六女筐无實
无利攸攸
无攸攸

夫とつて位下るといふ男も高貴なること明
め古昔乙帝の妹姫と嫁せしめし時妹と衣服
器も倫約と用ひしその庶婦の女子と美なる品と
えり此と君の袂の婦の袂不如此とつらり免く満
と知る十分とつらり月も望日小幾く ○上六
八九分めるるところと心得を吉かりとぞ

離下震上

女承筐无實士刲羊无血无攸利 夫婦の
道なり 重 第一先祖の血を先祖の祭るは礼有
といふ婦の筐宮とて夫の血祭とて羊と割裁との供へ
りのつら 樹具といふ唐土の作法なり本邦の春日取方西尊
神と祀も牲物のそとつら有とねる上六陰柔とて
然る居る應も六三徳とつら 應も虚
柔とて實も血を象たり夫婦の名といふ
故に子とつら女といふ終る夫婦の未と
遂に離別とつら利吉とつら

經曲餘而

周易卷之三

七



離下 離明也 震動也 成之
震上 震也 豐也 意以 豐也

豐亨王假之勿憂宜日中
小宜

初九其配主遇
旬雖咎无
往尚且有

六二其劓也豐
見往疑疾を

得亨有發若
吉

九三其沛也豐
其右肱を折
咎无

豐亨王假之勿憂宜日中

豐大さうん
るの義あり

訓てゆるやうふたりつるやう離の明德天下の政寛ん人推育の仁王者これ豊假この道
明徳四方て假ざる所ふあり
○初九遇

其配主雖旬无咎往有尚

初と四同剛ふ
て他の卦ふお

○六二豐其劓也日中見斗往得疑疾
有孚發若吉
陰柔不正ふて徳くらく共

離明の功なりと劓とをその阻めがけり
徳の劓豊大なるがゆへ日中見斗星と
三月昏ふ南不出る星なり二五君臣の間み
○九三豐
急休るなとほつおふその孚發若く
人よくんせしむるとり吉刺とす

其沛日中見沫折其右肱无咎

沛古
沛の字に

作て幔幕のしとる六二の劓外ふかざり
引まや
おはと豊の卦の徳大ふさうなるも離の光明震動と輝き
照るは以てその用とるは九三今陽爻の正しきが
小明の能てしはさうなるふ應爻の上六陰柔位
て震の終るを動かさ用くしとる離明も豊
るるはさうなる沛ふ母なるも日中らうる沫星
の光とるのさうりかなれとたとは右の肱折く不自由

九四其部豐
其夷主遇吉

右の部人々々自由勝手なるゆえなり
志くもども仕出しる咎おはらざる故咎ひる事あり
○九四豐其部日中見斗遇其

夷主吉 二句の七字の義の上ふまへり初離の初なり
九四の豐の初なり應文ふして同き剛陽なる

夷主吉と九四大臣の位お居て下ふらる初の賢者
と得るも六五の君と助く仍る吉なりといふ

六五章來
慶譽有吉

○六五來章有慶譽吉 爻変と革と
の意と革とは

上六其屋
闕其無人

○上六豐 國家の慶譽やまをらるる吉なり
○上六豐 國家の慶譽やまをらるる吉なり

其屋闕其無人
三歲不
覲

其屋部其家闕其戸闕其無人三歲不
覲 陰柔の暗く高き極めて人の言を用いずと

艮下
離上



艮下 離上 離火之艮山なり山艮止その内お向
離上 艮とて火の所なり

旅小亨
旅貞吉

旅小亨旅貞吉 六五中得る外あり四と上
との二陽ふまへる外ふまへる

初六旅瑣
斯其災

○初六旅瑣々斯其所取災 陰柔ありて下位ありゆえ心へ中へ柔弱の他國あり
有の象と旅中困窮して瑣々たる度心づかういけり

經典餘而

周易卷之三

十六

六二旅次小即其
資らう懐く童
僕の負と得たり

九三旅其次と焚
其童僕と喪う
負も厉

九四旅處ふ干
其資斧と得
我我心快く不

六五雉と射て
終ふ譽
命と以て

と子細九四刑陽性實るも離隔て下へ就のころは
離火のころは

○六二旅即次懐其資得童僕負

陰文ありて陰位居又中正の徳りるが故に小人を敬
とれたと旅して次舎を安堵して金銀懐中の次負を
召仕人十今やて其うへ良貞人なるもの得る
と童僕と喪うるも年倍なりまへ上九五明
君の助け

○九三旅焚其次喪其童僕負

厲 旅處の道へ兎うく柔和小身と謙下とつた
心さう剛強の道と以て正中さう下体のころは
艮の上九と同じ高懸の象なり人なるを
やたとい旅の次も焚くせ召仕る童僕の能信する
そのもは

○九四旅于處得其資斧我心不快

陽と以て四位處止む中さう正さうも柔和の
象なり以て克人ふる象なり旅の宜きと得る
るのの斧は武具さう資は賤布さう不自由さう
と得るも四位陽の本位ふる九二の次舎
處止むるも
此と心快く
○六五射雉矢

亡終以譽命

君位ふりて離るる柔順の徳なり
文明の譽なり
雉と射亡る雉も色文明さう
の譽命と終るもの一説は旅の君さう他家小身
で今川家ふり居る取初のやと離雉さう兵
也矢と射加る矢と離の象ふ加る時乾と
離の陰文へ入て陽の一文を加え矢の象と
寄居る國の君侯の前さうこの夏あつた譽命と
得る禍災も福ふる凶も吉と轉じて結句本國を
遷きて寄公さう居る仕合さうの文變遷
嘉遷負吉さう此八助疏の説あり

上九鳥其巢旅中先笑後號咷喪

巽下 巽上

巽往彼有利見大人見利

上九鳥焚其巢旅人先笑後號咷喪
旅中有有てその身安心無憂る今上九剛と
以て心高り身の中に過るりと人たんん
与り心高り身の中に過るりと人たんん
焚もつるがく又先初の笑はの一つと後は号咷
ふがくくと牛の性質は柔和順る易と物とは
但し初の柔和心と後の心おる由也凶
離も飛鳥と火の象也也

巽下 巽上
巽下 巽上
巽下 巽上
巽下 巽上

巽小亨利有攸往利見大人
巽下 巽上
巽下 巽上
巽下 巽上

巽下 巽上
巽下 巽上
巽下 巽上
巽下 巽上

初六進退武人之貞利

九二巽在史巫用若吉咎无

初六進退武人之貞利
初六陰柔居下居人小巽順て心小貞也也
過るりと武人の貞也也
武人の貞也也

九二巽在史巫用若吉咎无
九二今今恭敬也也
九二今今恭敬也也

在牀下用史巫紛若吉无咎
在牀下用史巫紛若吉无咎
在牀下用史巫紛若吉无咎

在牀下用史巫紛若吉无咎
在牀下用史巫紛若吉无咎
在牀下用史巫紛若吉无咎

九三頻不異者

六四悔亡田獲三品

九五貞吉悔亡利不亡无初有終先庚三日吉

多しとてふらりこの心の信の心さふたえど紛若うぞつぬふらりこころ吉ありて答うるこころ

○九三頻異各 在る元異順とのふり今

六四悔亡田獲三品 此の文陰柔して應の援か

九五貞吉悔亡利不亡无初有終先庚三日吉 命今

上九巽て林下 喪在其資斧

兌下兌上 兌亨利貞

兌亨利貞 兌亨利貞

兌亨利貞 兌亨利貞

兌亨利貞 兌亨利貞

兌亨利貞 兌亨利貞

兌亨利貞 兌亨利貞

兌亨利貞 兌亨利貞

兌亨利貞 兌亨利貞

兌亨利貞 兌亨利貞

兌亨利貞 兌亨利貞

兌亨利貞 兌亨利貞

兌亨利貞 兌亨利貞

兌亨利貞 兌亨利貞

兌亨利貞 兌亨利貞

兌亨利貞 兌亨利貞

兌亨利貞 兌亨利貞

り

初九和兌吉

九二孚兌吉悔亡

六三來兌凶

性亨... 初九和兌吉... 九二孚兌吉悔亡... 六三來兌凶

初九和兌吉... 兌下居之應之也

九二孚兌吉悔亡... 六三之陰柔也

六三來兌凶... 上卦之外下卦之內

九四兌未寧介疾有喜

九五劓于孚有厲

上六引兌

九四商兌未寧介疾有喜... 陽介節

九五劓于孚有厲... 剝陰之陽

上六引兌... 引兌之時

坎下 巽上

濞惡と不どる所
波水より巽の風より風水上行
巽上 坎下 波水より巽の風より風水上行

換亨王假有利涉大川利

換亨王假有利涉大川利貞
九

換亨王有廟
假大川利
利貞利

の君剛陽中正あして六四又陰の正きとて君ふ承く
命令下へ示し又九二の大臣剛徳あり坎の雨水
るゆい巽の風ふくくその膏澤と民ふほごこ換
艸木芽と出しさうゆかゆえふ事とふる又水じと時
るる風らるる時洋換る此亨の道王廟中假
ぬい丹誠とるる拜の祖考の神靈来格
ぬ此魂氣も又精心の換るるものより行むる
り又巽と木と坎水も浮て舟の象と大川と涉
ふ利有り人の心とわらつびるなり危そや
うのたらい大直るると貞正と用ゆるゆえふ利なり

初六用て極馬
壯吉

初六用極馬壯吉

初六と換の初と換と

九二換
其

九二換奔其

換の象と変剛と壯と

机悔亡

換離るの時と坎險の中と當る時と悔亡

六三換
其

六三換其躬无悔

換散の時

經典餘師

周易卷之三

七

其躬悔元一
○一説の讀法
其躬と洹と悔
无

六四其群と洹
元吉其群と洹
て女の有夷
の思所匪

九五洹と其
大號と洹
王居と洹

とて應與らる洹散とるの悔憂なり
柔の質とつひ不中不正とつひ應文の上九无位の地小居
とるに中く世の洹とるに中く世の洹とるに中く世の洹とるに
のるに夫より吾其躬とるに中く世の洹とるに中く世の洹とるに
とこの説の洹の一字を句讀して下の四字一句又一説は
六三其志意とるの時の方民とるに中く世の洹とるに中く世の洹とるに
身の思慮洹散と悔憂るとして
○六四洹其群

元吉洹有在匪夷所思
五と賢君
大臣と以剛柔

君臣相睨て克洹と下民小洹施と洹
恩洹と下民小洹施と洹
元吉洹有在匪夷所思
の思所の及とるに中く世の洹とるに中く世の洹とるに
洹と散とるに中く世の洹とるに中く世の洹とるに
○九

五洹汗其大號洹王居无咎
九五洹德
の明君

五と洹无

上九其血と洹
去て逃出と咎无

兌下坎上

九四の賢臣と徳相合して洹散とるに中く世の洹とるに中く世の洹とるに
洹とるに中く世の洹とるに中く世の洹とるに
恩洹と天下小大に號令とるに中く世の洹とるに中く世の洹とるに
洹散とるに中く世の洹とるに中く世の洹とるに
○上九洹其

血去逃出无咎
事留滯して壅塞とるに中く世の洹とるに中く世の洹とるに

一身の氣血とるに中く世の洹とるに中く世の洹とるに
上九洹其血とるに中く世の洹とるに中く世の洹とるに
兌下坎上
兌下坎上
兌下坎上
兌下坎上

節亨苦節
貞不

初九
戸庭不出
咎无

九二
門庭不出

して人の操節のどし中よ

節亨苦節不可貞
澤中水受りて節限

と凡十分と過るれば此てりれとさるる一法と立

るも漢の世の三ヶ条とて天下よく抑さまり泰の法

のどし多くありて世とさるる二節へりどよれなり

仍亨苦節之節と過る人さ苦む貞ハ常なり

法過る貞と守りて人節ふ

苦々常の定まりどしハ為るべし

初九不出
戸庭不出

戸庭内庭外庭より陽とて

下在るも他卦とちりてり

節の卦ふ於てよりい人て動うさ

るる節止とてまりて動うさるの則ふか戸を

家よりこの文の意へ人の言行とつひとつひ之見を

口と震と身のまるといふことくこのどしとさるる

初九戸庭不出

九二不出門庭凶

初九戸庭不出

九二不出門庭凶

凶

六三節若也則
嗟若无咎

六四安節亨

九五甘節吉
有王

六三不節若則嗟若无咎
六三ハ中

又坎の險阻臨の時宜しうるまど節

小於て他の卦と異こと凡免の柔和以て順道は

て見境を用ゆがゆえ無咎と凡子細ハ身

中節若て義行故嗟若無咎

六四陰柔以て陰位安堵とるは此

且剛徳中正より九五の君承あるが此

中正以て操節と為の象と凡身安トて中

節ふるも凡事亨なりて吉なりとい

九五甘節吉
有王

上六苦節貞凶悔亡

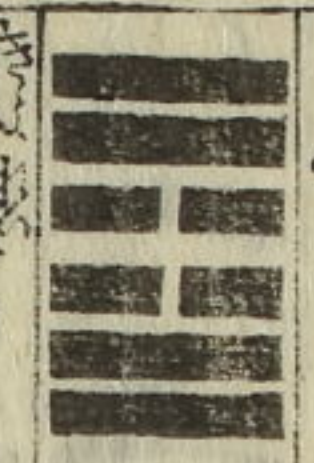
兌下巽上

中孚豚魚吉大

有り上より節制を万人より行はせしむるなりといふ此道とせしむるは往所として尚まざるなりとあり吉の道有り行も往もせざるなり又往之に之て変じし即ち地澤臨ふ之なり大君の宜きふるふがゆえなり

○上六苦節貞凶悔亡 上六の節の窮極なり又坎の險阻艱難の窮極なり困窮のとれむとて守りて貞固に

意志と立るとは悔と云ふなりと云ふなり変じし中孚豚魚の吉と云ふなり豚魚乃こそゆるぎの中孚の卦なり



兌下 巽上 巽兌合する時へ中虚にして心の象と云ふなり中孚と云ふなり

中孚豚魚吉利涉大川利貞 豚と魚と巽の

川と涉るふ利有り貞ふ利有り

初九虞吉有它不燕

九二鳴鶴在陰其子和之我小好爵有

象有り無知にして成通するの象と取り字へ大信と注して至誠真實なるなりと云ふなり誠の至ふなり大事成成履るなり此の故へ大川と涉るなり中孚と信と守るの道有り信と守るを正固堅剛ありと云ふなり成るなりと云ふなり貞ふ利有り又巽を木なり卦象内虚なり外實なり舟の象なり澤水の上ありとの故へ大川と涉るなり ○初九虞吉有它不燕

初四陰陽とも小位正しくして相應じ下卦兌悦順從の身有りなり事小字と不字とあり可信と不可信と有り其時と時有りぬと虞るなりして吉と察し知るなり他の心有りて変じるとは心燕なりと云ふなり苦勞と云ふなりと云ふなり心も燕なりと云ふなり ○九二鳴鶴在陰其子和之我

經典餘師

周易卷之三

十一

吾再與之靡

六三敵或得

或鼓或罷或泣或歌

六四月望小幾

求め初づつ字の至りて威通とるやたつとむがゆえ
るりたとて親鶴ハ幽ハ隠るる所小在く鳴るの難雀こ
まて聞て和る云我小徳何ぞ人かんとまひき
たる人と徳共りたり好爵祿と得てそ人とくもふ
官位ハ美酒飲で我と再と共ふあひたのーまんたり
心るり二人志やまひよ
○六三得敵或鼓或
泣或歌

罷或泣或歌

一卦と見る時ハ外実内虚ありて
三四中よりて字なることなり

二卦とありて時ハ六三不正あり六四も正ハ陰
同類するもどる情性異ふことなり上九の我小
應せんも求て見悦して上九ハ信寤て我小心
とて字卦咸應の道小背くハ或鼓うらて進む或を
罷くまうぞく或泣るるハ或歌ハのー心常かな
きことかくのぞく敵仇と得ることハ六三不正な
るゆへ小兒悦ふまはる
○六四月幾望馬匹

馬匹亡る答无

九五孚有掌如
答无

上九翰音天子
登る貞也

亡无咎

六四字の主交あり四ハ五君小進ハ陰と臣こ
迎へ君の光と承るハ月望日小幾々れ

日の光と受て盛るの至りハ臣の道も小幾々れ
望日小進る君と敵とるハ又月ハ正黨の初交とともふ
て君小逼るハ無徳なり初て亡るも君小
事ゆると以て正ハ臣の職と守るハ六四元より臣
の位より陰位の正ハ不在グゆるりかきハ
心得るハ答無

五有孚有掌如无咎

九五君位の正ハ賢君
居るハ剛徳ある賢君

上九翰音天子
○上九翰音登于天

貞凶

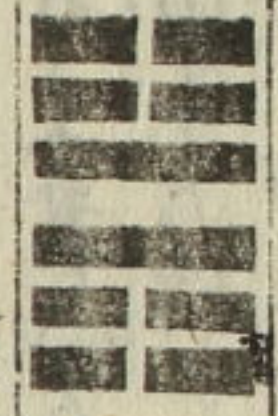
上九字の終る故小信実ハ翰音と
家雞より音たつ天子飛のなりてきこゆれ

字信の名ありありて信實のすいハ善
どもその飛飛とらるるにたて聞ありて徳ハ

艮下震上

小過亨貞利
有言
大事不可
飛鳥之音
遺音不宜
下宜
大吉

とやして貞不守て交通するは凶のまじりて交通
よまざる節の上爻と下爻とを節中のまじりて保るるまじり
まじりて交てまじりて貞正と
つども凶なりとす



艮下震上 震の雷聲艮山の高小なる其の象
常より少く過り又陰の君位

小過亨利貞可小事不可大事飛鳥

遺之音不宜上宜下大吉

過は常道小過る
可なり
又卦小飛鳥の象あり内
道は不可なり
又卦小飛鳥の象あり内

初六飛鳥以凶

六二其祖小過
其妣小遇
其君小及
不其臣
小遇
外无

初六飛鳥以凶 初の連交や
上の連交や
翼の象と鳥の象と一輕一重一
早一遅一仍て土夫ふとま
うし思慮の浅小たすまの鳥の飛で咎ふり易ふた
と良の初その良止るれ小
かるく進て以て凶なり

六二過其祖遇

其妣不及其君遇其臣无咎

初六の象と鳥の象と一輕一重一
早一遅一仍て土夫ふとま
うし思慮の浅小たすまの鳥の飛で咎ふり易ふた
と良の初その良止るれ小
かるく進て以て凶なり

九三過て之と防
弗從がうて
之と我うと凶

九四咎无過弗
之と遇往
必と戒し

過行て其妣と遇と云うり又二と五と君臣とて了時
小過のよと小臣と以て行過して君と違付るるとい
て臣の分とまわり臣の位と遇るといふと云ふと云ふ
す○九三弗過防之從或我之凶小過の時

陰過て陽位を九三の時九三の時陽位不在
て正居と羣陰小人の為姤九三の時九三の時
つと剛と恃で幾先と防とて過とて意
と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

九三と我と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
小過四陰と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
以て分と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
なると君羊陰の小人との蔽と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

戒勿用永貞此文小過のよと小當て剛と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

永貞と用ゆる
勿れ

六五密雲雨
不我西郊自
彼穴不在

上六遇弗
過と飛鳥
離る凶

○六五密雲不雨自我西郊公弋取

彼在穴五君位より陰柔と以て尊位小居る故小

陰と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
西郊の陰の方より小畜小西郊の解より彼穴六二より

○上六弗遇過之飛鳥

離之凶是謂災眚過るの時震の究極して

災青と謂

離下坎上

既濟亨小利貞初吉終亂

周易卷之三

周易卷之三

中過萬亨之理不たぐいさり常と過ると此と
飛鳥の迅速小離さうて遠く過るふたは是と災青
小及といふより凡て小人ふらうた慢ふたは傍若
無人小顧る天理人情小戻てさう災青と招く
類宜下の義あり此は不直

既濟亨小利貞初吉終亂
既濟のとき
於大事なる

世濁れも今日うたはりて周の世とさうりさる時
へ已小亨さうてさうる小俄小大直小りさる品を
小切さるる宜きふらうた奮小剛さうりて
貞正小利らうる初と戒慎まささる吉さるるも
終らう凶直さうりてさうるべらうり亨小の二字

初九其輪濡其尾无咎

六二婦其茀逐七日得

經緯餘而

周易卷之三

廿下

種小説と云ふも難き事非さるる小利貞
て明白さうるとさうり小利貞逐の象の詞さうり小
の九五の小貞も此類ありて変小於て異さるるも
詞小於て小異大同ありて善明白さるる也

初九其輪濡其尾无咎

初九陽と以て
上の四小應ず

且離火の陽勢と以て進むさうるさうり下の
二句進むさうりさうりさうりさうりさうりさうり
の輪と後(或)進むさうりさうり又獸の水と浴ふその尾
水ふさうりて濡さうりさうりさうりさうりさうり既濟の時
済の理とさうり

六二婦喪其茀逐七

日得

六二離の文明中正の徳と以て上九五乃
君小應む志意とさうりさうりさうりさうりさうり

位不安堵して事の不足さうり賢者と假用さうり
心さうりさうりさうりさうりさうりさうりさうりさうり
欠さうりさうりさうりさうりさうりさうりさうりさうり

九三高宗鬼方
之伐三年小人用
咎

との喻より進でぬがひを求め遂に勿と一但し
まじ時節のつる日ありきゆえ七日と待てこころを
得たりとてつる子細卦六六位 ○九三
り七度と経て一変むるがゆなり

六四繻小衣知
終日戒

既小濟成の初より九三陽爻と以て陽位より剛
賢君の大不可と不徳の小人大不可との度を用
勿きとるりその人軍吏の賤室つぬ民の害とる
の大将の又しく事聞る事いふれとのぞとらり
るる小帝三年ふして克伐と得たり此爻と得
るるの小人ふい ○六四繻有衣初終日
凶

有終日戒

戒 六四より見る時二三の互坎の水より本位坎乃
初之濟の卦より水休より舟の義より

九五東鄰之牛
殺祭之實
其福受
如不

九五東鄰殺牛不如西鄰之禴
祭實受其福 國家と治條と法度祭目乃
文飭と用ゆる君徳の誠
たよけ濟の時へ事変革んとする時より鑿きより
まじり發人と終日とて用心とるべき

祭實受其福 國家と治條と法度祭目乃
文飭と用ゆる君徳の誠
神明と事る心の誠ふ在て供とるの美と布文とる
連し卦も東と西とる牛とる牲供と
る祭の念入て厚との之禴はまつりの薄きとの
る東鄰九五より西鄰六六より五中と過るり二

上六其首ヲ濡
其尻

坎下 離上

未濟亨小狐
汔濟濡其尾

進下 行なりこの心を東鄰の祭の義を度るる西鄰の祭の儀を度るる誠実の心入つて福幸とめく
○上六濡其首屬
狐の水に濡るる尾の義なり此初爻の意なり
この爻變を以て入るる坎の水に入れば陸に水入て前へ登るとして思慮を以ておぼゆる
入て首の濡るる狐の義なり君子今日吉
夏と得るる明日凶なり
○初六濡其尾
初の福幸ありて後日の福幸あり



坎下 離上

火の升て水の下に故水火用て濟未
○未濟亨小狐汔濟濡其尾无攸利
輕人

卒ふとて懲りて戒慎し水に濡るる戒慎し水に濡るる
狐の好むる水に濡るる

利を攸无

初六其尾ヲ濡
其尻

九二其輪ヲ貞
貞吉

六三未濟征凶
利

尾の濡るる利を攸无
○初
初の道とて限きまりか
○初
初の道とて限きまりか

六濡其尾吝
濟のとて陰柔の微カヤ
○初

九二曳其輪貞吉
天下未濟のとき
道坎難くして思慮

六三未濟征凶利
○六三未濟征凶利
○六三未濟征凶利

九四貞吉悔亡
震用伐鬼方
三年有賞于大國

利とせざるの意あり故不僞也
利とせざるの意あり故不僞也
利とせざるの意あり故不僞也
利とせざるの意あり故不僞也
利とせざるの意あり故不僞也
利とせざるの意あり故不僞也
利とせざるの意あり故不僞也
利とせざるの意あり故不僞也
利とせざるの意あり故不僞也
利とせざるの意あり故不僞也

貞吉悔亡震用伐鬼方三年有賞于

大國 九四 刪德 離明の賢也

六五貞吉
悔無君子之光
有孚有吉

六五 貞吉 悔無君子之光 有孚有吉
悔無君子之光 有孚有吉
悔無君子之光 有孚有吉
悔無君子之光 有孚有吉
悔無君子之光 有孚有吉
悔無君子之光 有孚有吉
悔無君子之光 有孚有吉
悔無君子之光 有孚有吉
悔無君子之光 有孚有吉
悔無君子之光 有孚有吉

无悔君子之光有孚吉

上九有孚
酒无咎
濡其首
有孚失是

上九 有孚 酒无咎 濡其首 有孚失是
有孚失是 有孚失是 有孚失是 有孚失是 有孚失是
有孚失是 有孚失是 有孚失是 有孚失是 有孚失是
有孚失是 有孚失是 有孚失是 有孚失是 有孚失是
有孚失是 有孚失是 有孚失是 有孚失是 有孚失是
有孚失是 有孚失是 有孚失是 有孚失是 有孚失是
有孚失是 有孚失是 有孚失是 有孚失是 有孚失是
有孚失是 有孚失是 有孚失是 有孚失是 有孚失是
有孚失是 有孚失是 有孚失是 有孚失是 有孚失是
有孚失是 有孚失是 有孚失是 有孚失是 有孚失是

首有孚失是

首有孚失是 首有孚失是 首有孚失是 首有孚失是
首有孚失是 首有孚失是 首有孚失是 首有孚失是
首有孚失是 首有孚失是 首有孚失是 首有孚失是
首有孚失是 首有孚失是 首有孚失是 首有孚失是
首有孚失是 首有孚失是 首有孚失是 首有孚失是
首有孚失是 首有孚失是 首有孚失是 首有孚失是
首有孚失是 首有孚失是 首有孚失是 首有孚失是
首有孚失是 首有孚失是 首有孚失是 首有孚失是
首有孚失是 首有孚失是 首有孚失是 首有孚失是
首有孚失是 首有孚失是 首有孚失是 首有孚失是

周易餘師卷之三終

